

[農業経営部門]

1. 農業集落の類型化と類型別集落営農の組織化における特徴

[要約]

県内の農業集落は農林業センサスデータを基に小規模農業集落型、樹園地型、中規模農家型、委託型、兼業型、大規模農業集落型の6類型に分類される。各類型で運営されている集落営農には類型ごとに特徴がみられる。

[担当] 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

担い手の減少や高齢化、耕作放棄地の発生等、農業基盤の弱体化の対策として県や市町村等では集落営農の組織化を支援している。そこで、地域・営農状態を基に農業集落を類型化するとともに、各類型の集落で運営されている集落営農の特徴を把握する。

[成果の内容・特徴]

1. 2005年農林業センサスデータ22項目を基に主成分分析とクラスター分析を行うと県内の農業集落（センサス集落）は6類型に分類される（図1、表1）。集落営農組織の代表への聞き取り調査から、各類型の集落での集落営農組織化における特徴を整理した（表1）。

(1) 小規模集落型

担い手や耕地面積等の農業規模は小さく、その縮小率が高い。県内全域に分布する。集落営農は、農地の維持を目的に組織化され、直売所など高齢者・女性の活躍の場を作り営農以外の面からも設立の支持を得ていた。

(2) 樹園地型

農業規模は小さく、縮小率も大きい。樹園地割合が高く、果樹産地に分布する。集落営農は、稲作の省力・低コスト化による農地の維持を目的に組織化され、稲作と果樹作での作業・資金競合を回避し、果樹作に集中させられる点がメリットになっていた。

(3) 中規模農家型

農業規模は中程度で、縮小率は小さい。1戸当たりの経営面積が大きい。県南の平野部や吉備高原、美作や蒜山地域に多く分布する。集落営農は、機械の共同利用や共同防除などの部分的な共同化による稲作・転作作目の省力・低コスト化と所得の増加を目的に組織化されていた。

(4) 委託型

農業規模と縮小率は中程度で、区画整備割合と作業委託割合が高い。県中北部の中山間地域に多く分布する。集落営農は、稲作の省力・低コスト化により農地を維持することを目的に組織化されていた。また、機械の更新時に大型機械を共同購入することが動機となっていた。

(5) 兼業型

農業規模が大きく、縮小率は中程度で、兼業農家割合が高い。都市の周辺部に多く分布する。集落営農は、基盤整備や転作導入を機に稲作の省力・低コスト化や所得の増加・安定確保を目的に組織化されていた。最近では後継者の農業離れが進んでおり、農地の維持も目的となっていた。

(6) 大規模集落型

農業規模は大きく、縮小率は小さい。1戸当たりの経営面積が大きい。県南部に隣接して分布する。園芸品目を導入するなど個別で経営を発展させている。集落営農組織化事例はない。

[成果の活用面・留意点]

1. 集落営農組織化を支援するにあたり、対象集落の類型を把握することで、その集落の地域・営農条件に適応した動機付けに活用できる。

[具体的データ]

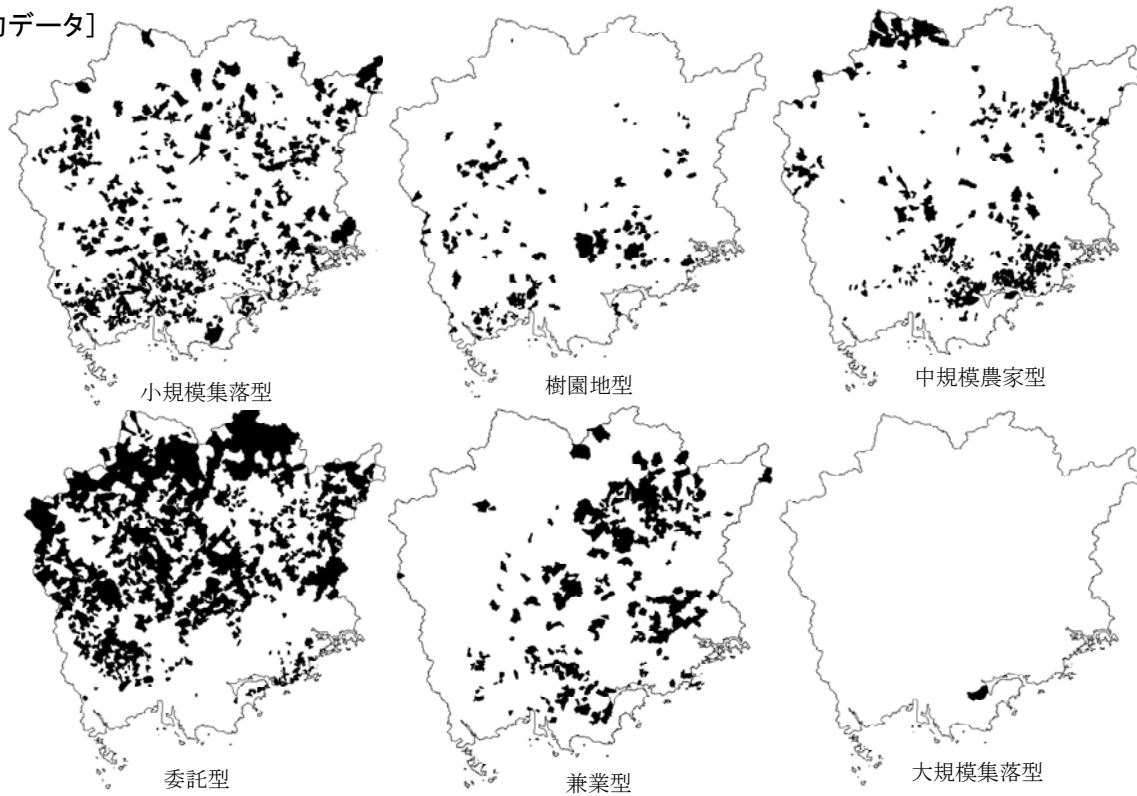


図1 各類型の分布

表1 各類型の特徴及び各類型に立地する集落営農の組織化における特徴²

類型名	農業 ^y 規模	規模 ^x 縮小	1戸 ^w 面積	兼業 ^v 割合	区画 ^u 整理	作業 ^t 委託	樹園 ^s 地率	集落営農の組織化における特徴 ^r
小規模集落型	小	大	小	大	小	小	小	・農地の維持と稲作の省力・低コスト化を目的に組織化 ・直売所など高齢者・女性に活躍の場を提供 ・中山間地域等直接支払制度の活用
樹園地型	小	大	中	小	小	小	大	・農地の維持と稲作の省力・低コスト化を目的に組織化 ・労力と資金を果樹作に集中
中規模農家型	中	小	大	中	中	小	小	・稲作・転作作目の省力・低コスト化を目的に組織化 ・個別経営に軸を置き、部分的な共同化 ・集落の実情に応じて作業受託等に拡大
委託型	中	中	中	大	大	大	小	・農地の維持と稲作の省力・低コスト化を目的に組織化 ・機械更新が集中する時期に大型機械の共同購入 ・中山間地域等直接支払制度の活用
兼業型	大	中	中	大	中	中	中	・稲作の省力・低コスト化と転作作目導入による所得の増加・安定化を目的に組織化 ・最近では農地の維持を目的に組織化
大規模集落型	大	小	大	中	大	小	小	・組織化事例なし

²各項目の大・中・小は兼業割合を除き、平均値の±20%未満の場合を中、それより低い場合を小、高い場合を大とし、兼業割合は類型間の差が小さかったため平均値の±5%未満の場合を中、それより低い場合を小、高い場合を大とした

^y集落の総農家数と経営耕地面積計

^x1985年から2005年までの農家戸数・経営耕地面積の縮小率

^w1戸当たり経営面積

^v二種兼業農家割合

^u区画整理農地割合

^t作業委託農家割合

^s耕地面積計に占める樹園地率

^r各類型に立地する集落家農組織(各類型2～4組織)の代表への聞き取り調査により作成

[その他]

研究課題名：集落営農の類型化と育成手法の解明

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：橋新耕三